シリーズ　しまねの遺跡 発掘調査パンフレット４

大田市仁摩町

庵寺古墳群
あんでらこふんぐん

日本海を望む高台のムラと古墳

「シリーズしまねの遺跡発掘調査パンフレット」は、発掘調査を行った島根県内の遺跡について最新の調査成果をわかりやすく紹介するものです。この巻では、山陰自動車道(仁摩温泉津道路)の建設工事に先立ち平成20(2008)・23(2011)・24(2012)年度に行った庵寺古墳群の発掘調査の成果を紹介します。

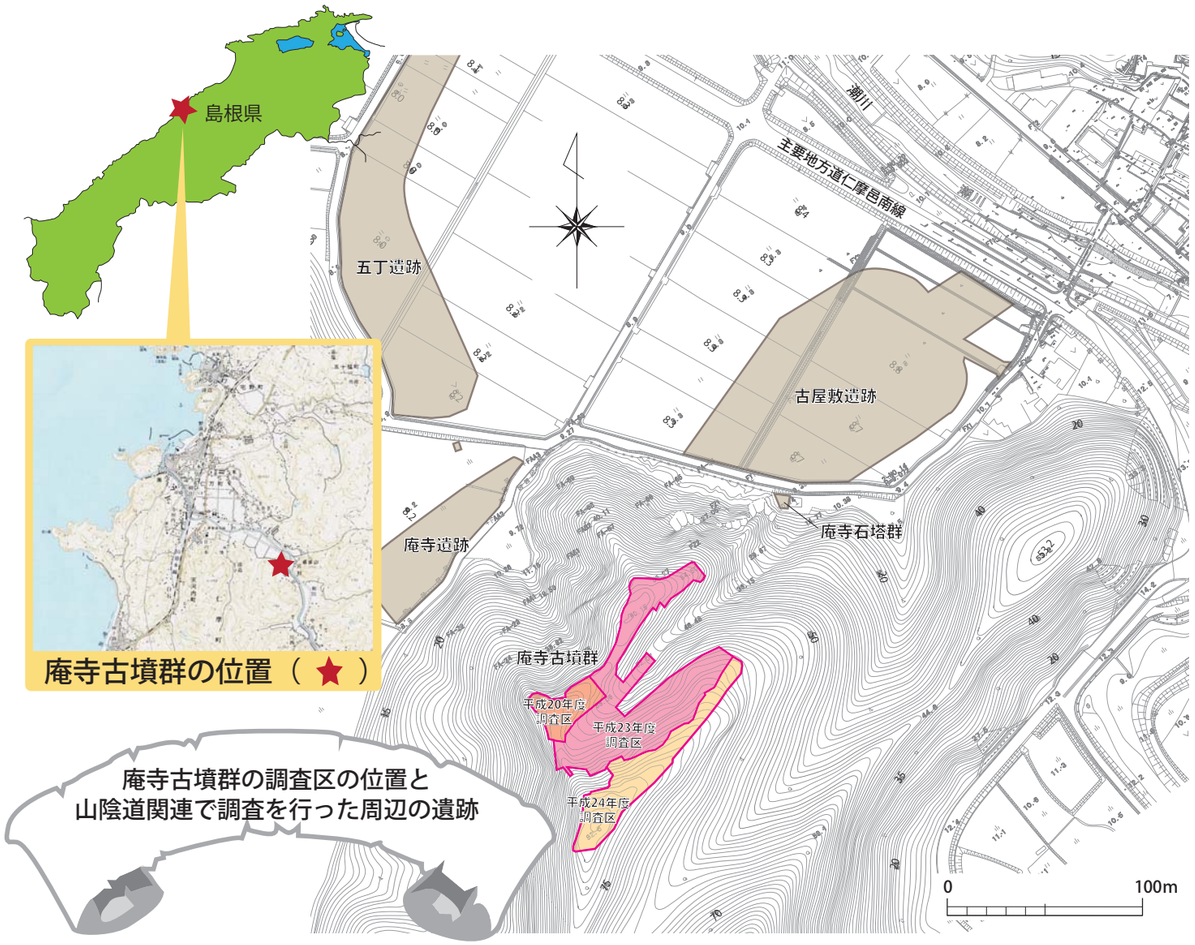
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

庵寺古墳群はどんな遺跡？

庵寺古墳群は、島根県大田市仁摩町大国でみつかった遺跡です。

遺跡のある場所に山陰自動車道（仁摩温泉津道路）が通ることになったため、平成20(2008)年、23(2011)年、24(2012)年に、島根県教育委員会（埋蔵文化財調査センター）が発掘調査を行いました。

発掘調査では、標高60～80mの小高い山の上で、今から約1700～1300年前の古墳時代に造られた古墳24基や、さらに時代をさかのぼった約2000年前の弥生時代のムラの跡が発見されました。



上空から見た庵寺古墳群
（北東から撮影。写真奥が温泉津方向）

調査中の庵寺古墳群（遺跡の北側から撮影）

弥生時代の高台のムラ

発掘調査では、今から約2000年前の弥生時代後期のムラの跡が見つかりました。

急な山の斜面を造成して、小さな平坦地（加工段）を幾つも作り出し、そこに竪穴建物（たてあなたてもの）や掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）を建て、住まいや倉庫としました。

この高台のムラからの眺望はとてもよく、眼下に広がる平野はもちろん、遠くは日本海の沖までを一望できます。この立地からみて、このムラは見張り場のような役割を持っていたことを想像させます。

しかしわずかな期間でこのムラの営みは途絶え、古墳時代に入ると、次々と古墳が作られる墓域へと姿を変えていったのです。

発掘調査で見つかった竪穴建物跡
小さな穴に柱を立て上屋を支えました。

土器が出土した！

見つかったのは弥生土器

柱穴のない加工段

掘立柱建物跡が見つかった加工段
柱を立てた小さな穴が並んでいました。

はっくつ君の発見メモ

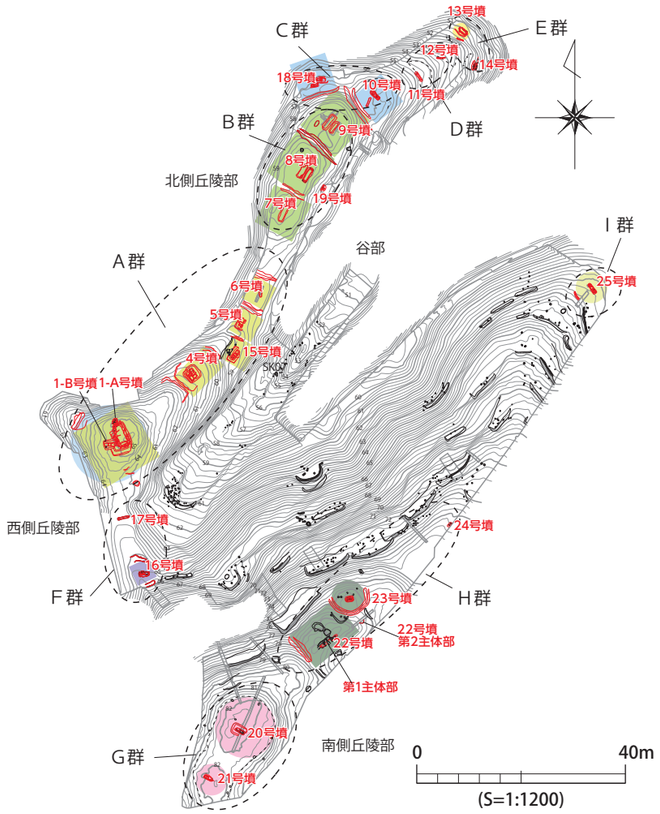
ぼくの住む街の山の上で遺跡が見つかったんだって。発掘調査員のおじさんが庵寺古墳群という遺跡の名前を教えてくれたよ。「古墳群」だから古墳しか見つかっていないと思っていたら、昔の人が住んでいた建物跡が見つかったなんてビックリ！山の上からの眺めはバツグンだけど、登るのは大変。昔の人たちはどうしてこんな場所を選んだんだろう？

はっくつ君
土器や遺跡が大好きな近くに住む小学生。夢は考古学者になって世界の遺跡を発掘して大発見をすること。

石見地方屈指の大古墳群を発見

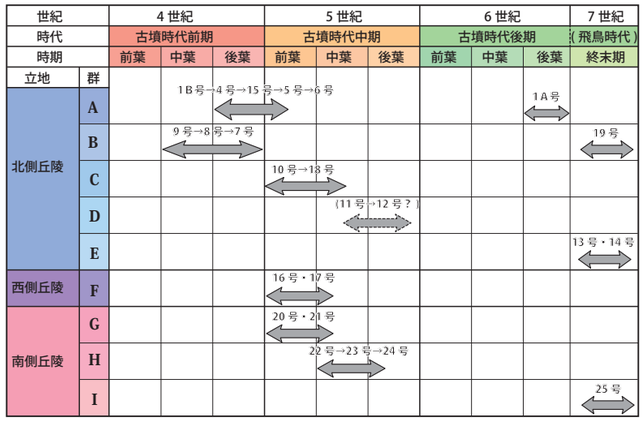
庵寺古墳群では、山の尾根筋において、今から約1700年前～1500年前の古墳時代前期～中期に造られた古墳19基と、約1400年～1300年前の古墳時代後期～終末期の古墳5基が見つかりました。石見地方東部においては、屈指の規模を誇る大古墳群です。庵寺古墳群の大きな特徴の１つは、丘の上の狭い範囲に、それぞれが個性的で、バラエティーに富んだ古墳が、ぎゅっと集まって造られていることです。古墳の形もさまざまならば、遺体を納めた棺（ひつぎ）の形もさまざま。この理由を探ってみると、はるか昔、庵寺古墳群に葬られた人々が西へ東へ、日本海を舞台に活躍した壮大なストーリーが浮かび上がってくるのです。

尾根筋に古墳が並ぶ北側丘陵部
手前は15号墳の石棺



古墳造りは計画的に？

古墳の築造順を検討した結果、庵寺古墳群では古墳時代前期(4世紀半ば)にまず北側丘陵部において古墳を造り始めたことがわかりました。その後、尾根上で場所を広げながら古墳時代中期(5世紀)までの約150年間続きました。古墳時代後期に入った頃、いったん途絶えますが、古墳時代の終わり頃(6世紀末～7世紀初)には再び墓造りが再開されました。



・(　) は時期比定の根拠に乏しいもの
・→は築造順を示し、不明なものは並列させている

庵寺古墳群の築造順

バラエティーに富む形や棺

庵寺古墳群で見つかった古墳は、形が明らかになったものは、葺石（ふきいし）や埴輪（はにわ）などがない10m前後の比較的小さな方形か円形の古墳でした。遺体を納めた棺は、木製の板材を組み合わせた箱形の木棺や、これを丁寧にまねて作られた石製の棺、丸太をくりぬいた形の3mを超える長大な木棺、復元すると1m近くある大型の壺を用いた土器棺など、大きさも構造も材質もバラエティーに富む内容でした。これは庵寺古墳群の大きな特徴といえます。

また棺の底に円礫（えんれき）を敷く構造の箱式石棺は、島根半島沿岸部等の小型古墳からなる古墳群で類例が多く見られることから、当時、遠く離れた地域の葬送の習俗がこの地に伝えられたことと考えられます。

古墳名	墳丘の形	墳丘の大きさ	主体部 (埋葬施設)	副葬品
1 A 号墳	円墳	径 15m	横穴式石室	玉類 (碧玉製管玉、ガラス小玉、土玉) 耳環、大刀、刀子、鉄鏃、須恵器
1 B 号墳	方墳か	一辺 12m	箱式石棺 1、土器棺 1、他 2	八禽鏡 1、碧玉製管玉 1、鉄剣 1
4 号墳	方墳	8.5×6m	箱式石棺 2	土器枕 (鼓形器台)
15 号墳	方墳	一辺約 5m	箱式石棺 1	ガラス小玉 1、刀子 1
5 号墳	方墳	一辺約 5m	箱式石棺 (礫敷き)	ガラス小玉 1、刀子 1
6 号墳	方墳	一辺約 5m	不明 1	
7 号墳	方墳	一辺約 8m	組合式木棺	
8 号墳	方墳	9×10m	組合式木棺	鉄鎌 1、ヤリガンナ 1、鉄鏃 1
9 号墳	方墳	9×10m	組合式木棺 2、土器棺 1	鉄剣 1
19 号墳			石蓋土壙	
10 号墳	方墳	一辺約 7m	箱式石棺 1(礫敷き)、他 1	
18 号墳	方墳	一辺約 7.5m	箱式石棺 1、石蓋土壙 1	
11 号墳			土坑墓か	
12 号墳			土坑墓か	
13 号墳	円墳か		箱式石棺	
14 号墳			箱式石棺	
16 号墳	方墳	一辺約 4m	箱式石棺	
17 号墳			刳抜木棺か	滑石製臼玉 12
20 号墳	円墳か	径 12m？	箱式石棺、礫敷き	滑石製臼玉 3、緑色凝灰岩製管玉 1
21 号墳	円墳か	径 6m？	不明 1	
22 号墳	方墳	8×1m	刳抜木棺、箱式石棺	
23 号墳	円墳	径約 6m	箱式石棺	刀子 1
24 号墳			刳抜木棺か	刀子 (棺外)、滑石製勾玉 1(墓壙外)
25 号墳	円墳か	径約 6m	箱式石棺	

庵寺古墳群 古墳一覧表

22号墳の木棺
丸太をくりぬいて作られた丸い木棺。長さは３ｍあり、庵寺古墳群の中で最も長い棺。

22号墳第1主体部

9号墳の木棺
庵寺古墳群で最初の古墳。棺は板材を組み合わせていた長い棺。棺の内側は当時貴重な品だった朱で赤く塗られていました。

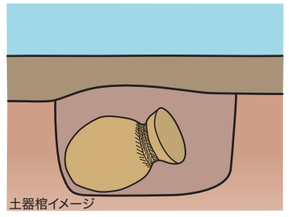
9号墳第1主体部

1-B号墳の石棺
組合式木棺をまねて、石を丁寧に加工して作らています。島根県内では他に例がありません。

1-B号墳第1主体部

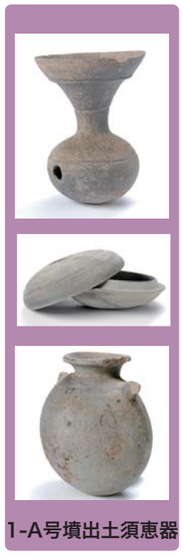
9号墳第3主体部

9号墳の土器棺
墳頂において木棺墓2基と並んで土坑に横倒しになった壺形土器が見つかりました。壺の口側には空間があることから埋葬時には木製の蓋などがあったのかもしれません。

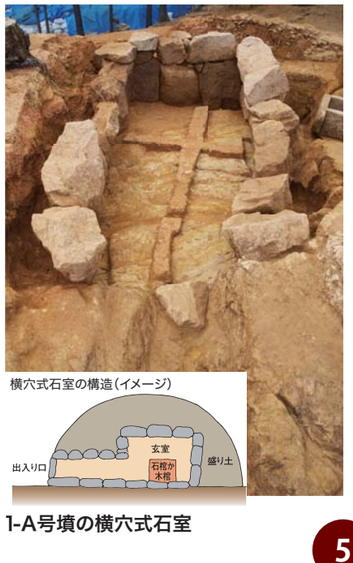


土器棺イメージ

9号墳で棺として使われた土師器



1-A号墳出土須恵器



1-A号墳の横穴式石室

副葬品は語る

被葬者ゆかりの品

埋葬にあたっては、死者が生前身につけた装飾品や日用品、時には弔いの儀式に用いた道具が棺に副えられることがありました。庵寺古墳群では、11の埋葬施設から、中国製の青銅鏡をはじめ、鉄器、玉類、土器等が見つかりました。

1-B号墳棺内から出土した青銅鏡(八禽鏡)と碧玉製管玉

青銅鏡は背面の図柄から紀元前1世紀頃漢の時代の中国で作られ、九州北部等を経由して庵寺古墳群の被葬者が入手したものと考えられます。わざと壊され遺体の頭の脇に副葬されていました。直径9.6㎝。

17号墳出土滑石製印玉

5号・15号墳出土ガラス製小玉

23号墳出土 滑石製勾玉

4号墳第2石棺内出土の土器枕に使われた器台形土器
頭が置けるようにわざと土器を一部打ち欠いている

わざと壊した？折り曲げた？

副葬された鉄器には、剣や鏃などの武器のほか、鎌や刀子（小形のナイフ）といった農具や工具がありました。注目されるのは副葬の際にわざと折り曲げたものが多かったこと。同じ例は松江市や鳥取市、京都府北部等の日本海沿岸の古墳群で見つかっています。また土器を枕に使う例は鳥取県東部で見つかっています。こうしたことから、庵寺古墳群の被葬者は、生前これらの地域の有力者と何らかの交流を持っていたと考えられます。

庵寺古墳群出土品 鉄器にはわざと折り曲げたものがある

「古墳」と「古墳時代」

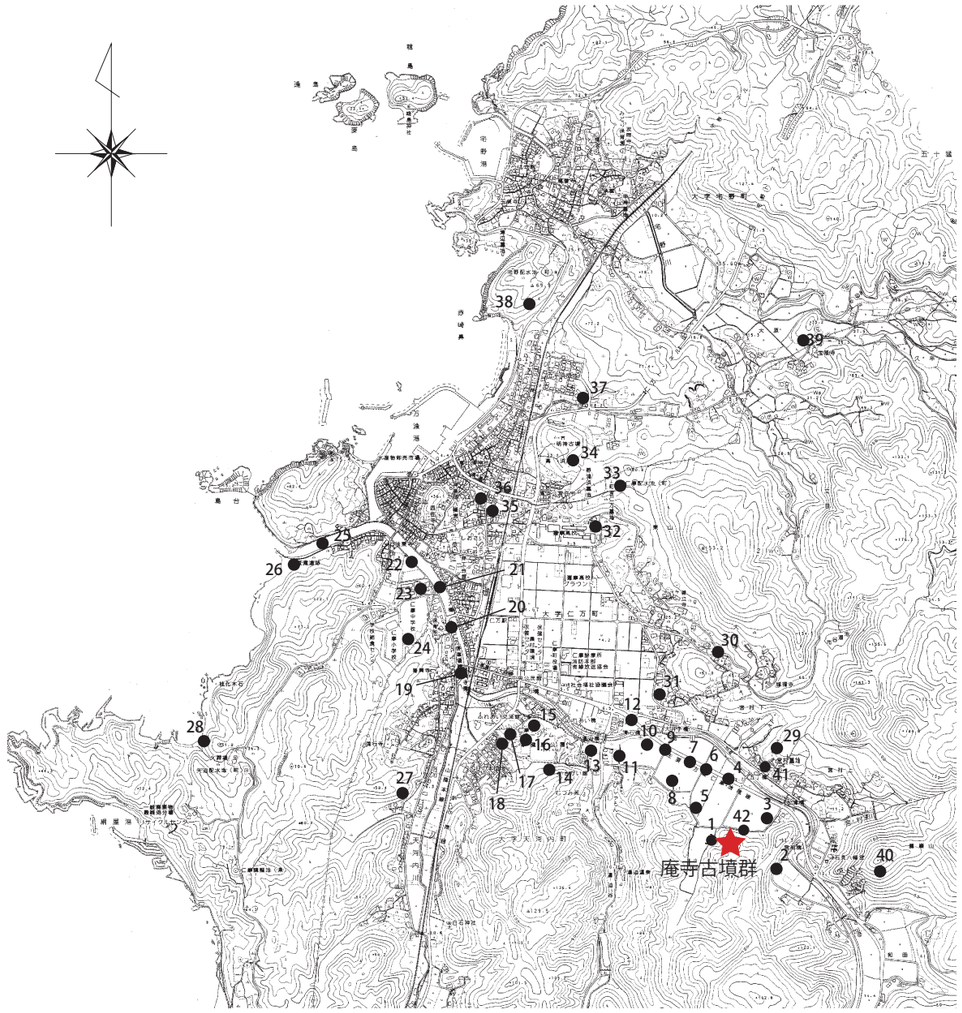
3世紀後半から7世紀前半までの約400年間は、日本列島各地でたくさんの古墳が造られたことから「古墳時代」と呼ばれます。古墳は濠や溝に囲まれていて、葺石や埴輪などの外表施設を持った盛土(墳丘)内に、石室等の埋葬施設を設け、さまざまな副葬品とともに死者を手厚く埋葬した墓です。この400年間は、埋葬施設や副葬品、古墳の形の変化を目安に、前期・中期・後期・終末期と区分して時期や地域ごとの特徴を比較することができます。

仁万平野の歴史と庵寺古墳群

庵寺古墳群の調査により、弥生時代後期のムラの跡が見つかりました。でも、なぜ生活するのに不便な山の上でムラが営まれたのでしょうか？　この答えを探るのは簡単ではありませんが、仁万平野周辺では他にも安養寺古墳群(17)で、庵寺古墳群の弥生のムラと同じ時期の竪穴建物が見つかっています。さらに石見地域の沿岸部でも同じ時期のムラの跡が山の上や高台でいくつか見つかっていることから、この時期に広い範囲で、平野部を見下ろす丘陵上の開発が始まった様子が明らかとなりました。

また、庵寺古墳群では、古墳時代前期から終末期にかけての古墳が24基も発見されました。これらの古墳のうち古墳時代前～中期のものは小型の方墳が多く、木棺や石棺、土器棺などバラエティーに富んだ埋葬施設をもち、少量の副葬品を納め、尾根筋に階段状に連続して築造されたという特徴があります。一方、古墳時代後期後半になると、尾根筋の最高所に横穴式石室をもち、多数の副葬品を納めた1-A号墳が単独で築造され、仁万平野一帯を治めた首長の存在もうかがえます。仁万平野周辺では、他にも安養寺古墳群や楡ノ木谷横穴墓群(15)、大規模な横穴式石室や家形石棺をもつ明神古墳(34)など多数の古墳が知られており、庵寺古墳群との関連が注目されます。この他、清石遺跡(12)では古墳時代中期の土器が多数出土しており、平野部には庵寺古墳群に埋葬された人物が暮らした集落があった可能性も浮かび上がってきました。

庵寺古墳群や今後の発掘調査によって、古代における仁万平野一帯の歴史がますます明らかになっていくことに期待したいと思います。



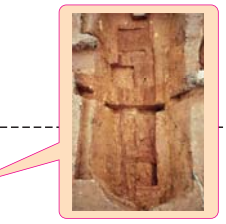
★庵寺古墳群

1. 庵寺遺跡
2. 駒岩遺跡
3. 古屋敷遺跡
4. 孫四田遺跡
5. 五丁遺跡
6. 大月遺跡
7. コオスミ遺跡
8. ヒヨトリヶ市遺跡
9. 京円原遺跡
10. 千後田遺跡
11. 入石遺跡
12. 清石遺跡
13. 白石遺跡
14. 千人塚遺跡
15. 楡ノ木横穴墓群
16. 楡ノ木遺跡
17. 安養寺古墳群
18. 飯田遺跡
19. 善興寺橋遺跡
20. 仁万大橋遺跡
21. 中配前遺跡
22. 川向遺跡
23. 毘沙門塚古墳
24. 毘沙門塚遺跡
25. 坂灘遺跡
26. 坂灘古墳
27. 矢迫屋横穴群
28. 田尻遺跡
29. 松林寺遺跡
30. 薮田遺跡
31. 大井出遺跡
32. 大寺遺跡
33. 高浜遺跡
34. 明神古墳
35. 墓原遺跡
36. 打ち落とし遺跡
37. 立平遺跡
38. 赤崎山横穴群
39. 宝隆寺浦古墳群
40. 石見城跡
41. 大国地頭所遺跡
42. 庵寺石塔群

庵寺古墳群の位置と周辺の遺跡分布

庵寺古墳群関連年表

今から～年前	西暦	時代区分		庵寺古墳群の主な遺構	仁万平野周辺の主な遺跡
約 2,100 年前		弥生時代	前期		古屋敷遺跡 川向遺跡 五丁遺跡
約 2,000 年前	1 年ごろ		中期	弥生集落	
約 1,750 年前	250 年ごろ		後期		安養寺古墳群(SI01) 楡ノ木遺跡
約 1,600 年前	400 年ごろ	古墳時代	前期	9 号墳 1-B 号墳	坂灘遺跡 安養寺 1 号墳
約 1,500 年前	500 年ごろ		中期	20 号墳 22・23 号墳	清石遺跡
約 1,400 年前	600 年ごろ		後期	1A 号墳	明神古墳 安養寺 2・3 号墳 松林寺遺跡 楡ノ木谷横穴群
約 1,300 年前	710 年	(飛鳥時代)	終末期	13・25 号墳	
約 1,200 年前	794 年	奈良時代			五丁遺跡
約 800 年前	1185 年	平安時代			古市遺跡 白石上屋敷遺跡
約 600 年前	1338 年	鎌倉時代			清石遺跡 白石遺跡
		室町時代			コヲスミ遺跡 石見城跡　大月遺跡 天垣内城跡



発掘調査のひとコマ

編集・発行　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 平成27(2015)年3 月

〒690-0131島根県松江市打出町33　電話0852(36)8608

http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/　　Eメール maibun@pref.shimane.lg.jp